

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 五 十 嵐 美 代 枝 姉 妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 14:1 ほめたたえよ創り主を

ほめたたえよ創り主を きよき御前にひれ伏し

ささげまつれ 身をもたまをも たぐいなき御名をあがめて アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 71 それ神はその独り子を

それ神はその独り子をたもうほどに 世を愛したまえり

すべて彼を信ずる者の 滅びずしてとこしえの命を得んためなり

それ神は世を愛したまえり 世を愛したまえり アーメン

共同の祈禱 祈禱書27 聖餐式主日②(献身)

主なる神さま、きょうは聖餐式にあずかれることを感謝します。

イエス・キリストによる救いを覚えて、あなたの愛に深く感謝します。

あなたがわたしたちの主を死から復活させられたように、わたしたちを主と共に、死から命へよみがえらせてくださいますので、わたしたちは、喜びと感謝をもって主のために生き、自分自身をあなたにささげます。(ローマ12、Iコリント6)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会教育活動を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

《 子どもプログラム 森川真菜・熊田なみ子姉妹担当 》

聖書朗読 ルカによる福音書9章1～9節(新約聖書121頁)

説教・祈禱 「十二使徒の派遣」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 14:2 くすしきかな神の力

くすしきかな神の力 荒ぶる波をしずめて

あやうきより御民を守り この世の悩みに勝たしむ アーメン

\* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出されたまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 65 父 御子 御霊の

父・御子・御霊の大御神に ときわに絶えせず

御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老(司会・受付 次週:門脇献一長老)

本日 受付 1階:大日南信也執事 2階:星野房子執事 / 動画:雨宮信長老 録音:大日南信也執事

週 受付 1階:森永美保執事 2階:那珂信之執事 / 動画:森永翔馬兄弟 録音:門脇光生兄弟

## I 序

十二使徒の派遣は、マタイ福音書の方が詳しいです。ただ、ルカは、マルコ福音書に基づいて、同じようにこの話を次の話に続けています。派遣の結果、人々がイエスとは何者かと噂し始めたことです。特に領主ヘロデがどう思ったかということに結びつけています。

マタイ福音書では領主ヘロデがどう思ったかは、ちょっと離れた所で書いています。この話の少し後の方で書いています。領主ヘロデが洗礼者ヨハネの首をはねた経緯を語り、それと関連付けています。

十二使徒の派遣については、ルカは短く書いているので、イエス様の命令は二つだというのが分かりやすいと言えます。

一つは3節「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない。」

もう一つは4-5節「どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。誰もあなたがたを迎え入れないなら、その町を出て行く時、彼らへの証しとして足についた埃を払い落しなさい」。

## II 何も持たないで行け

3節「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない。」 じゃあどうやって生活するのかと思いたくなるので、マタイは、「働く者が食べ物を受けるのは当然である」と言っています。

伝道者は伝道の働きで生活せよということですが、十二使徒の場合は、今の伝道者には与えられていない、すごい権能が授けられています。

1節「あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能をお授けになった。」 悪霊を追い出して病気をいやしてもらった人たちは、医者にかかったらどれくらいお金がかかるかと思うと、使徒たちの生活費以上の報酬を支払ってくれるでしょう。ルカは医者ですから、どんな病気にはどれくらいお金がかかるか、分かるでしょう。

しかし、これに関して、使徒たちが法外な金額を請求することがないように、マタイ福音書では「ただで受けたのだからただで与えなさい」とイエス様が言われたことを記録しています。病気を癒す権能は、ただでイエス様から与えられたのです。医学部に入って高額な教育費を払って資格を取得したわけではないのです。

マタイは十二弟子ですから、直接イエス様の言葉を聞いた人です。マルコとルカは十二使徒の中に入っていないので、『イエス語録』があればそれを見るか、なければ十二使徒の誰かに聞くしかありません。しかし、十二使徒全員に聞いても、皆が同じように覚えているわけではないでしょう。こういうお金に関する事は、取税人マタイがいちばんちゃんと記憶しているか記録しているのではないのでしょうか。

## III 歓迎されるかされないか

4-5節「どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。誰もあなたがたを迎え入れないなら、その町を出て行く時、彼らへの証しとして足についた埃を払い落しなさい」。

十二使徒の派遣の前に、「ヤイロの娘とイエスの服に触れる女」の話があり、これは群衆が今か今かと待っていて喜んで迎えました。その前の「悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす」の話では、人々は出て行ってくれと歓迎しませんでした。

マタイ福音書では、十二使徒はどこに派遣されたのか、イエス様が地域を限定しておられることが書いてあります。「異邦人の道に行ってはならない。・・・むしろ、イスラエルの家の失われた羊の所へ行きなさい」（10：5-6）。

つまり、十二使徒はイスラエル十二部族に派遣されたのです。だから、旧約聖書で、神も神の約束も知っているイスラエル人が歓迎しないなら、「裁きの日には、・・・ソドムやゴモラの地の方が軽い罰で済む」とはっきり言われました。旧約聖書から神も神の約束も知らない異邦人の方が軽い罰で済むと言われたのです。

ルカは異邦人伝道の使徒パウロのお供をしたので、イスラエル人に限定する派遣は意味が無いと思って詳しく書いてないのかもしれませんが、しかし、イスラエル人への伝道であろうと異邦人への伝道であろうと、伝道は人々を二種類に分けるのです。伝道は人々を信仰と不信仰とに分けるのです。異邦人伝道でもパウロたちを歓迎する町もあれば歓迎しない町もありました。

天よりの主イエスと共に「天国は近づいた」と神の国を宣べ伝える時、天からの神の子キリストを受け入れる者と拒否する者に分かれます。主イエス・キリストによれば、人類は究極的には二種類に分かれるのです。キリストに属する者かそうでないか、です。このことに関して、キリストの言葉には妥協がありません。

今、オリンピックの真っ最中ですが、人間同士の地上の平和は、オリンピックのようにはかないものです。戦争をやめることができないので、せめて一時的に休戦しましょうというのがオリンピックです。古代ギリシャのオリンピアも、近代のオリンピックも、それは同じです。競技種目も、もともと、槍投げとか砲丸投げとか円盤投げとか、戦争の武器でした。また、ボクシングとかレスリングとか、戦闘のワザでした。またマラソンは戦いの勝利を告げるランナーがもとになっています。

平和がそんなに危ういのは、人類の罪、人間の罪に原因があります。人間に必要なのは、まず神との平和です。神との平和をまず第一とせよと、罪からの救い主は言われます。まず神の国と神の義を求めよ、そうすれば人間に必要なものはそれに添えて与えられます。人間の一時的平和は、神との永遠の平和の次に意味を持ちます。

主イエスは神の御子ですから、神の国を宣べ伝える目的は、永遠に続く神の家族を作ることです。4節「どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。」その家は、やがてキリストの教会として神の家族となります。教会は永遠に神につながります。5節「誰もあなたがたを迎え入れないなら、その町を出て行く時、彼らへの証しとして足についた埃を払い落しなさい」。その町は永遠に神との断絶となります。

#### IV イエスについてのうわさ

このうわさは、十二使徒のキリスト告白の伏線になっています。そこで、次のエピソード

ド「五千人に食べ物を与える」の次のエピソード「ペトロ、信仰を言い表す」につながっていきます。ここでは「ヘロデ、戸惑う」と小見出しにあるように、領主ヘロデの心が動揺していることを描いています。これはマタイもマルコも描いているので、重要な意味を持っているのでしょう。それは、ヘロデが洗礼者ヨハネの首をはねたことです。

7節「ところで、領主ヘロデは、これらの出来事をすべて聞いて戸惑った」のですが、「これらの出来事をすべて」とは、イエスと弟子たちによって起こった出来事です。その前は洗礼者ヨハネとヨハネの弟子たちによって起こった出来事でした。そしてどうやら、イエスと弟子たちによって起こった出来事の方が大きいうわさになっていました。

そのうわさは、昔の預言者の再来だというものでした。「エリヤが現れたのだ」という人もいて、更に「誰か昔の預言者が生き返ったのだ」という人もいました。エリヤは「生き返った」とは言われないのは、生きたまま天に召されたからです。領主ヘロデが気になるのは「生き返った預言者」です。洗礼者ヨハネは、人々から預言者だと思われていました。実際、旧約時代最後の預言者です。そしてその「ヨハネなら、私が首をはねた」はずだったのです。

マルコ、マタイの福音書では、ヘロデは、「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」と言っています。会いたくない幽霊みたいですが。しかしルカ福音書では「ヨハネなら、私が首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は」と言って、「イエスに会ってみたいと思った」のです。

ちょっと違うようですが、両方ではないでしょうか。会ってみたい、いや会いたくないと。7節によると、領主ヘロデは「戸惑った」からです。実際、会って見たらどうするでしょうか。ヘロデはヨハネを「正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていた」と、マタイ福音書にあるので、旧約最後の預言者ヨハネの話を知りましょう。ヨハネを恨んで殺害を謀ったのは、妻のヘロディアでした。

しかし、実際会ってみて、キリストであると知ったらどうするでしょうか。この領主ヘロデは、イエス様誕生の際、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられるでしょうか」と、東の国の星占い博士たちから聞いて、イエス様を殺そうとしたヘロデ王の息子です。

このヘロデがイエス様を殺そうと謀る可能性は充分あります。イエスをキリストと告白する弟子たちが殺される可能性もあります。実際、ルカ文書第二巻『使徒言行録』では、イエスをキリストと告白するゆえに殺された弟子たちは少なからずいました。

今日も、イエスをキリストと告白することは、命がけなのです。そして実際、主イエスは私たち弟子のために、命をかけてくださいました。